

プログラミング学習に取り組む螢雪ゼミナールの塾生



「児童の想像力 育みたい」

プログラミング学ぶ場を

進学塾の螢雪ゼミナール（本部羽島郡岐南町、白田克敏塾長）は、小学生にプログラミング学習の機会を増やそうと先月、県内などの同塾で「ケイセツプログラミングクラブ」を始めた。ゲーム制作などを通じてプログラミング技術を習得できる。対象は小2から小6の塾生で、受講は無料。白田塾長は「デジタル社会が進む中でプログラミングに親しんでもらい、子どもの将来の可能性を広げられたら」と話す。

文部科学省が示した小学校の新学期指導要領では2020年度、プログラミング教育を導入。人工知能（AI）などの情報技術の革新を見越し、基本的なコンピュータの操作や、プログラミング的な論理的な考え方ができるよう求められ、その重要性が高まっている。

螢雪ゼミナール 塾生向け無料教室



上級コースで制作できるゲームの一例

同塾ではプログラミング教材「スクラッチ」をベースに、楽しく学べる独自のキャラクターを用いた「プログラミングスム」を使用。子どもたちは、ノートパソコンやタブレット端末を使い、基礎的な操作法から、キャラクターなどが左右に進む横スクロールゲームやブロック崩しといったゲームを完成させるまで、段階的に学ぶことができる。

県内や愛知県の28校舎で受講が可能で、少なくとも月2回開く。最終的には子どもたちが制作した作品を集めて「ゲーム大会」を開く構想もあるという。白田塾長は「ゲームを制作することは、『相手をどう楽しませるか』というアイデアや想像力を育むことにつながる。専門のコースではないので、他教科受講のついでに受けられる。気軽に参加してほしい」と呼び掛けた。

受講や学習内容の問い合わせは同塾、フリーダイヤル0120(06)4010。
(大成朋友)